

I. 保温性の向上、対策

ハウスに展張しているフィルムの採光性を向上させると、温室内の気温・地温上昇をもたらす、省エネルギー化につながります。

一方、温室内の保温性を向上させる被覆資材の多層化は、栽培作物の光合成に必要な太陽光の透過量を減少させるため、採光条件を点検し、必要以上に透過量を落とさないように留意しましょう。

1. 被覆資材の汚れ等の確認

(1) 温室内の採光性を確保するため、被覆資材に汚れ等が付着していないか確認しましょう。

(2) 汚れ等が付着していた場合、被覆資材を洗浄しましょう。

その際、ブラシ等を使うと被覆資材の表面に傷がついて逆に汚れやすくなるので、圧力をかけた水で洗浄しましょう。



汚れが付着した被覆資材の例

2. 採光を妨げる障害物等の確認

(1) 温室内外に採光を妨げるような資材や機材がないか確認しましょう。

当面必要のないものは採光に影響のない場所に移動しましょう。

3. 内張カーテンの破れや隙間の点検

内張カーテンの保温効果を最大限に発揮させるには、カーテンのつなぎ目や裾部に破れ・隙間ができないよう十分に注意する必要があります。

下図を参照に、稼働させた上で、隙間が無いかを確認しましょう。

4. 出入口付近や妻面の隙間

内張カーテンの隙間 (例)



天井カーテンの隙間 (表面)



天井カーテンと側面カーテンのつなぎ目



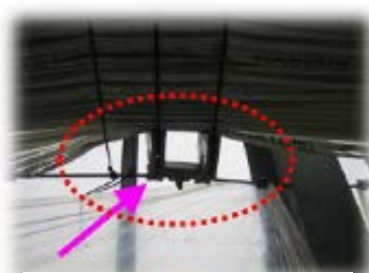
温室のコーナー部の隙間



肩部の垂れ下がりによる隙間



天井の滑車付近の隙間



肩部の滑車付近の隙間

開閉により外気が侵入しやすい出入口付近や温室の妻面の隙間を点検し、内張カーテンの多層化等により高い保温性を確保しましょう。



妻面カーテンの隙間

妻面カーテンの隙間対策①

妻面カーテンの隙間対策②

5. カーテン裾部の隙間

- (1) カーテンの裾部が短かすぎることによる隙間、暖房時にカーテンがはためくことによる隙間に注意が必要であり、さらに、夜間は冷気が下降してカーテンが温室内側に膨らみ、温室内に冷気が侵入しがちです。
- (2) カーテン裾部を長めに確保し、留め具や土などの重しを乗せるなどして固定することにより保温性を確保しましょう。



冷気によるカーテンの膨らみ

カーテン裾部の固定(留具)

カーテン裾部の固定(土よせ)

6. 内張カーテンの開閉

- (1) 内張カーテンを自動開閉させる際は、加温シーズン開始前に開閉させて隙間の点検を行いましょう。基本的に、温室内が適温に達した後に開放し、温室内の温度が下がらないうちに閉めましょう。
- (2) また、開閉をタイマーで設定している場合は、その時期の日長（日の出、日の入り時刻）に応じて開閉時間の設定を調節しましょう。